「体動時の突出痛に対する予防的レスキュー薬の有効性および安全性に関する検討：多施設共同後方視的調査」実施について

書式変更: 下線なし

一般社団法人 日本緩和医療薬学会
先端学術緩和医療薬学タスクフォース
委員長 高瀬 久光

この度、一般社団法人日本緩和医療薬学会では、臨床現場で求められるエビデンス構築を目的に先端学術緩和医療薬学タスクフォースを設立し、「体動時の突出痛に対する予防的レスキュー薬の有効性に関する調査」を実施致します。

がん患者に発現する疼痛は痛みのパターンにより、1日の大半を占める持続痛と、動作などにより一過性に増強する突出痛に分類されます。基本的なオピオイド鎮痛薬の使い方として、突出痛にはレスキュー(速放製剤)を用いることが推奨されていますが、その薬効の発現には 15～30 分ほどタイムラグが存在するため、臨床においては動作の前に予防的レスキューを使用することがあります。

予防的レスキューの安全性については、単施設後方視的観察研究で、通常レスキューの使用方法と比較し、有害事象発現率に有意差がなかったことが示されています。しかし、予防的レスキューによる突出痛の増強抑制効果や、目的とする体動への有効性については未だ調査されていません。

≪研究の目的≫

臨床で経験的に用いられている予防的レスキューにおいて、その抑制効果や、突出痛の原因となる食事やリハビリの動作完遂へ良好な影響があるかを明らかにすることを目的とします。

≪本研究の意義≫

多施設共同での後方視的調査により、症例数を向上させた上で予防的レスキューの有効性評価を行います。臨床での安全かつ有効な予防的レスキュー適応の判断を示唆することが可能になると考えられます。

≪対象患者≫

2017 年から 2023 年 10 月 31 日までの期間に予防的レスキュー（モルヒネ錠、モルヒネ散、モルヒネ内服液、モルヒネ注、オキシコドン散、オキシコドン注、ヒドロモルフォン錠、ヒドロモルフォン注、フェンタニル注）の投与が施行されたがん患者

≪研究の方法≫

多施設共同後方視的観察研究（カルテ調査）

本調査は静岡県立静岡がんセンターの倫理審査委員会の承認を得て実施しております。
得られたデータは解析施設である静岡県立静岡がんセンターにて適切に管理されます。
データ内容は研究目的にのみ使用し、個人が特定されるような情報が公表されることはありません。
本研究は後方視的観察研究のため、原則的に研究費用は不要になりますが、日本緩和医療薬学会より、英文研究論文の投稿における英文校正と投稿費について資金援助を受けて実施いたします。

先端学術緩和医療薬学タスクフォース 第 3 研究班

田口 諒, 田中 怜,平嶋 志穂,小瀬 英司,内田 まやこ,高瀬 久光

研究全体の問い合わせ先；研究責任者　静岡県立静岡がんセンター　薬剤部　田口 諒

電話番号：055-989-5222　メールアドレス：r.taguchi@scchr.jp

昭和大学での問合せ先：薬剤部　平嶋志穂

電話番号：03-3784-XXXX　メールアドレス：XXXXXX

コメントの追加 [中澤1]: 記載をお願いいたします。